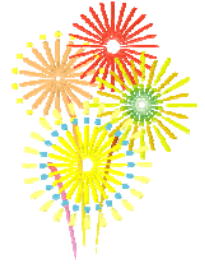


信楽園病院だより



第89号 平成20年8月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 Tel 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail main@shinrakuen.com ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

くも膜下出血とは？

副院長 脳神経外科 皆川 信

日本脳神経外科学会認定専門医

日本脳卒中学会認定専門医

くも膜下出血という病気は最近有名になってきたので名前を聞いたことがあると思いますが、命取りにもなりうる怖い病気です。治療にはもっぱら脳外科医が当たります。

病院にたどり着く前に亡くなってしまう人を入れると約1/3の人が亡くなり、約1/3の人が障害を残し、約1/3の人が元通りの元気な姿に戻るといわれます。それまで健康だった人がある日突然発症する病気ですので、私も含め誰もが今日、明日発病しても不思議はありません。人口10万人当たり年間約20人の発症率といわれています。

くも膜下出血の原因はいろいろありますが、そのほとんどが脳動脈の一部がふくらんできた動脈瘤の破裂によるものです。動脈瘤は数年かかってしだいに大きくなり、あるときその薄くなった壁に穴が開き大出血を起こします(破裂)。この出血は普通の脳出血(脳内に塊を作る)と違い、脳と脊髄全部を取り囲んでいるくも膜下腔という隙間へ流れ込みます。それでくも膜下出血という名前がついています。さて、出血がいつまでも続けば患者さんはその場で亡くなってしまいます。開いた穴がかさぶたの様な血の塊でふたをされ、出血がいったん止まった人が助かります。しかしこのふたはとても弱いので、ちょっと血圧が上がっただけで簡単に飛んでしまいます。それが再出血です。初回より出血はさらに増えますので死亡率も一段と高くなります。再出血を予防するには手術しかありません。2度と出血しないように動脈瘤の根元を金属のクリップで止めてしまうのです。脳外科の手術の中でも難しい手術に入ります。それは動脈瘤のほとんどが手術で到達しにくい脳の底にできるからです。手術の時期も問題です。2～3週間待って、腫れ上がっていた脳の状態が落ち着いてから行う晩期手術は、比較的安全で手術の成績も良好です。しかし2～3週間の期間に再出血しない保障はありません。それでわれわれ脳外科医は手術は難しく、また成績も少し悪いのを承知の上で、早期(発症数日以内)の手術を目指します。しかし動脈瘤のできた場所によっては、条件の良い晩期まで待つこともあります。また患者さんが昏睡状態であるとか全身状態の悪い時には残念ながら手術のできないこともあります。近年、血管内外科の進歩も目覚ましいものがあります。カテーテルを使って血管の中から動脈瘤を塞いでしまおうというものです。将来は現在の開頭法に取って代わるかもしれません。

くも膜下出血の頭痛は突発的に始まるのが特徴です。患者さんは経験したことのない痛みとかバットで殴られたようだと表現します。CT スキャンやMRI で簡単に見つかりますが、遅くなると軽い出血は消えてしまいます。早めの受診が肝要です。